

新たに導入した植物の開花・結実 ツリフネソウ属 (*Impatiens*)

濱 谷 修 一

1992年より、種子交換によりツリフネソウ属 (*Impatiens*) の収集を開始しており、数種が開花・結実した。この中から、まだ一般に普及していないが、園芸的に有望な形質を持つと思われる種を報告する。

Impatiens balfourii Hook. f.

原産は西ヒマラヤ。1993年4月、ハンガリー科学アカデミー植物園より種子を導入した。4月下旬にバーミキュライトに播種したところ、速やかに発芽した。定植には、まさ土とパーク堆肥を等量混合した用土を用いた。定植後は屋外で管理した。

葉は単葉で卵形、鋸歯縁。開花は7月上旬から9月下旬。茎は立ち上がり、開花時の草丈は約50cm。仮軸分枝を繰り返す、葉腋からは3~5花を持つ花序を1つ発生した。花色は白を地色とし翼弁が薄紅色。花の横径は2.5cm、ツリフネソウ属の特徴である距は真っ直ぐ伸び、翼弁の先から距の先までの長さは4.0~5.0cmであった。1花の寿命は3日前後。熟した果実の長さは2.0~2.5cmで、1果実当たり2~3個の種子を作った。

栽培は容易で、本年はプランターで栽培した

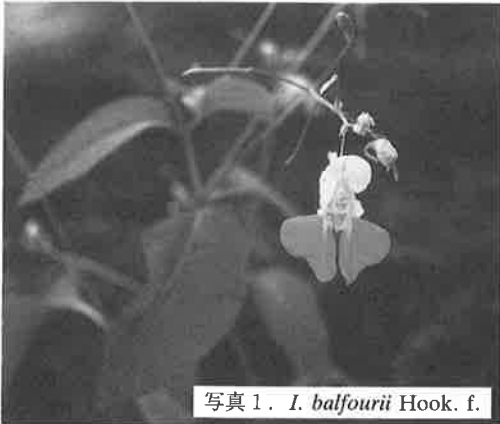


写真1. *I. balfourii* Hook. f.

が今後は系統進化園や花壇後列の植栽に期待できる。

I. scabrida DC.

原産はヒマラヤ地方。1993年3月、ボン大学植物園(ドイツ)より種子を導入した。4月上旬にバーミキュライトに播種後約1ヶ月で発芽した。発芽率は低かった。定植には前種と同じ用土を用いた。定植後は屋外で管理した。

葉は単葉で卵形~楕円形、鋸歯縁。開花は8月上旬から9月下旬。茎は多汁質で、横に枝を上げながら立ち上がり、開花時の草丈は80~100cm。葉腋から1~2花を持つ花序を1つ発生し、ハガクレツリフネ (*I. hypophylla*) のように葉の下で開花した。花色は黄を地色とし褐色の斑点が入り、花の横径は1.5~2.0cm、距は真っ直ぐ伸び、翼弁の先から距の先までの長さは4.0~4.5cmであった。1花の寿命は3日前後。熟した果実の長さは約5cmで、1果実当たり1~5個の種子を作った。



写真2. *I. scabrida* DC.

今回の栽培では発芽率が低かった点を除けば、それ以降の栽培は容易であった。山野草的な風情を持つため、今後はロックガーデン等の半日陰地の植栽に期待できる。

報告した2種については、越年の可能性について調査するため、10月下旬より最低10℃の温室内で、また *I. balfourii* についてはさらに無加温条件下においても、引き続き栽培している。結果は、次の機会に報告する。